

平成 23 年度 第 1 回 大規模防火対象物の防火安全対策のあり方に関する検討部会議事要旨

- 1 日 時 平成 23 年 7 月 7 日 (木) 10 時 00 分から 12 時 00 分まで
- 2 場 所 メルパルク東京 4 階 孔雀
- 3 部 会 員 : 関澤部会長、辻本部会員、佐野部会員、次郎丸部会員、野竹部会員、
山田部会員、丸山部会員、芳賀部会員、佐々木部会員、杉田部会員、
会田顧問 (下村部会員代理)、橋本副参事 (岩佐部会員代理)、
鈴木部会員、吉村部会員、安藤部会員、柏木部会員、城戸部会員
- 4 オブザーバー : 竹村建築指導課長補佐
- 5 事 務 局 : 渡邊予防課長、滝予防課長補佐、椎名国際規格対策官、守谷設備専門官、
大嶋違反処理対策官、村瀬企画調整係長、鍋島事務官、吉川事務官、
亀山事務官、大歳事務官、柳瀬事務官、
堀内部長 (能美防災(株))、堀田専任部長 (能美防災(株))

6 配 付 資 料

<資料>

- 資料 1-1 大規模防火対象物の防火安全対策のあり方に関する検討部会(平成 22 年度第 2 回)議事要旨
- 資料 1-2 大規模・複雑化した防火対象物の防火安全対策に係る主な検討課題及び検討の進め方(案)
- 資料 1-3 大規模・複雑化した建築物等における効果的な防火・防災安全対策の確保に関する調査検討事業に係る概要について
- 資料 1-4 震災時における建築物の防災管理に係る運用実態調査事業の概要について
- 資料 1-5 今後の検討スケジュール(案)

<席上配付資料>

- 資料 1 「大規模・複雑化した建築物等における効果的な防火・防災安全対策の確保に関する調査検討事業」に係る説明資料
- 資料 2 「大規模・複雑化した建築物等における効果的な防火・防災安全対策の確保に関する調査検討事業」中間報告書
- 資料 3 「震災時における建築物の防災管理に係る運用実態調査事業」アンケート(例)

7 議 事 概 要

(1) 新部会員の紹介

- ・事務局より新部会員の紹介がなされた。

(2) 前回の議事要旨の確認

- ・資料 1-1 大規模防火対象物の防火安全対策のあり方に関する検討部会（平成 22 年度第 2 回）議事要旨に基づき、事務局から説明がなされ、気付いた点については、7 月 15 日までに事務局あてに連絡することで了承された。

(3) 大規模・複雑化した防火対象物の防火安全対策に係る主な検討課題及び検討の進め方（案）について

- ・資料 1-2 大規模・複雑化した防火対象物の防火安全対策に係る主な検討課題及び検討の進め方（案）について事務局から説明がなされた。

(4) 大規模・複雑化した建築物等における効果的な防火・防災安全対策の確保に関する調査検討事業に係る概要について

- ・資料 1-3 大規模・複雑化した建築物等における効果的な防火・防災安全対策の確保に関する調査検討事業に係る概要について事務局から説明がなされた。
- ・席上配付資料 1「大規模・複雑化した建築物等における効果的な防火・防災安全対策の確保に関する調査検討事業」及び席上配付資料 2「大規模・複雑化した建築物等における効果的な防火・防災安全対策の確保に関する調査検討事業」中間報告書に基づき、事務局（能美防災）から説明がなされた。

(5) 震災時における建築物の防災管理に係る運用実態調査事業の概要について

- ・資料 1-4 震災時における建築物の防災管理に係る運用実態調査事業の概要について及び席上配付資料 3「震災時における建築物の防災管理に係る運用実態調査事業」アンケート（例）について事務局から説明がなされた。

(6) 今後の検討スケジュール（案）について

- ・資料 1-5 今後の検討スケジュール（案）について事務局から説明がなされた。

《質疑等》 ○部会員 ◆事務局

資料 1-3 及び席上配付資料 2 について

○建築物の設計者の実態調査を行う際、設計者が当初考えていた防災センターの配置は、施主の要望と消防機関による指導等により配置場所が変わると思うが、その経緯や設計者が防災センターを配置する際に工夫又は苦勞した点についてヒアリング調査して欲しい。又、席上配付資料 2 の 11、12 ページの中に、調査対象物の竣工年月を入れて欲しい。

◆防災センターの位置や設計者の苦勞した点については、ヒアリングで調査したい。また竣工年月についても追加したい。

○ヒアリング調査を実施する際、建築物の事業者が考える防災センター等に対する要望があると思うので、消防法令をベースに質問するのではなく、建築物の事業者の視点に立ってヒアリング調査を実施して欲しい。又、この事業は、防火・防災対策の両方に視点においてヒアリング調査をするようであるが、防災対策について重きを置いた調査をして欲しい。例えば、東日本大震災の発災時において、東京ディズニーシーのように避難誘導が的確にできるような防災対策等を実施している施設もある。又、一般のビルのオーナーや関係者が、ビルの中に居る人だけでなく、帰宅困難者や災害弱者、防災センターの役割等についての防災対策をどのように考えているのかを含め調査をして欲しい。併せて、防災対策に関する要望等も聴取して欲しい。

◆防火に関してだけでなく、防災という観点についても、関係者から要望を含め聴取したい。

○災害時における災害情報伝達状況（災害発生から避難完了まで）について調査して欲しい。

◆避難等の情報の流れについては、非常に重要な点だと認識しているので、しっかり聴取したい。

○大規模・複雑化した建築物の管理業務の請負契約書の内容についても調査して欲しい。

◆可能な限り聴取したい。

○災害時の情報伝達マニュアルを実態調査において入手して欲しい。又、防災センター要員の勤務者の給料も調査して欲しい。併せて、防災センター要員として仕事している人と飲食店等の従業員が自衛消防組織の一員として活動する意識の差を調べられたら良いと思う。

◆情報伝達手段について規定しているものについても入手する方向で考えている。専従の防災センター要員と従業員が自衛消防組織の一員として兼務しているものの意思の差については、可能な限りヒアリングで調査できればと思うが、定量的に示すことは難しいと思う。

○ヒアリング調査において、大規模建築物の各用途において任意で自衛消防組織を設置している場合と消防法令の義務として設置している場合の各々の消防訓練実施状況について調査して欲しい。

◆可能な限り聴取したい。

○各調査対象物は、災害時の対応についてマニュアルを作成し訓練等を実施していると思うが、マニュアルどおりにいかなかった時にどのように対応するのか調査して欲しい。

◆今回の調査では、マニュアルどおりにいかなかった場合の対応策についても調査したい。

○災害時の防災センターや避難誘導等の情報伝達状況は複雑になると思うので、フローチャートのようなわかりやすいものを示して欲しい。又、非常用エレベーターを活用した避難方法の調査において、自力避難困難者専用として使用するのか又は健全者も含めて使用するのかを調査して欲しい。併せて、避難時に非常用エレベーターを使用することによるメリット・デメリット及び消防機関による指導方法についても調査して欲しい。

◆情報伝達について分かりやすくすることについては、図解するなど可能な範囲でまとめたい。非常用エレベーターの使用方法についても調査したい。

- 以前、とある防災センター内を見学したことがあるが、その中で働くビル管理会社の人と警備会社の人は、消防訓練の時に全く連携がなかった。そのようなことを含め防災センターの運営をどのように行っているのかをヒアリング調査して欲しい。防災センターの運営をスムーズに行うためには、自衛消防組織の統括管理者が重要になると思うが、名ばかりの統括管理者もいると思うので、どんな人が統括管理者になっているのかも調査して欲しい。又、見学した防災センター内の防災表示板等の設備が決して使い勝手が良いような配置ではなかったため、防災センター内の設備の配置のあり方についても調査して欲しい（本来は、防災センター内にいる人が情報共有をできるような設備の配置が望ましい）。消防訓練においては、成功する訓練を実施するのではなく失敗する可能性のある訓練を行うことが必要であると思う。失敗することで今後の対策を考えることができ、得るものが大きいと思う。
- ◆非常に重要なことと認識しているので、そういった視点からも調査したい。

資料 1-4 及び席上配付資料 3 について

- 防災計画に何を規定していたのかを調査して欲しい。又、防災センターが機能したかどうかについてもヒアリング調査して欲しい。
- ◆防災計画の部分及び実際に防災センターがどのように機能したかについて聴取したい。
- 今回のアンケート調査は、重要であると考えているが、今回の想定を超えた地震の実態を把握しレビューをし、課題を抽出整理し、その解決策を導くような報告書にして欲しい。又、災害想定を超えて対応できたことと、そうでないことについて区別したようなアンケート及びヒアリング調査して欲しい。
- ◆ご意見につき参考としたい。
- アンケートの対象者を誰にする予定なのか。又、アンケートの内容だが、オフィス家具が転倒したとの設問について、東北大学では、家具転倒防止をしていたにもかかわらず全部倒れたと聞いているが、それが、想定外だから倒れた若しくは想定内であったが倒れたという部分がどうやったら見えるか。それから、ポンプ起動の誤作動については、ヘッドが飛んだ等によってポンプが起動したということだと思うが、答える人には分かりづらいのでは。それから、防火扉が作動したというところは、どういったことが原因で作動したかが分からない。
- ◆家具の転倒の部分については、ヒアリングで聞き取りたい。又、設問の表現については工夫する。
- アンケートの対象者は、消防用設備等を担当している人か。アンケート対象者によっては、事務局が欲しい情報が得られない可能性がある。
- ◆アンケートについては、防災の担当者宛てに送付する予定である。ヒアリング調査については、回答できる方に対応していただく予定である。
- 自衛消防組織は、従業員でないと入れないのか、それとも警備会社の人が入っても良いのか。
- ◆法令には、従業員でなければならない等の規定はない。

- 統括管理者は警備会社（ビルメン）等ではだめだというものではないので、警備会社等が受託している場合もある。
- ビルのオーナーによって考えがあるが、自社で設備員を防災センターで運用しているところもある。
- 実際に自衛消防隊を担当している方もヒアリングで話が聞けるようにしてほしい。
- ヒアリング調査は、防火・防災管理者の権原を有する者にして欲しい。
- ◆当時の実態が説明できる方に対応していただくよう可能な限りお願いする。
- 自衛消防組織について、本業として働いている人と従業員の傍らでやっている人の組織の構成比率についてヒアリング調査して欲しい。
- ◆自衛消防隊の構成について、どのような方で構成しているかということか。
- そのとおり。
- 消防計画は、大規模地震に対応した消防計画作成ガイドラインに沿って作成されているのか、又、東日本大震災以降、消防計画を見直した、あるいは見直している事項等についてもヒアリング調査して欲しい。
- ◆そういったことを含めて聴取したい。
- 消防計画と実態が相違しているのは多々あるが、働いている人は、業務の関係や対応で震災対応ができなかったという話しも聞いている。又、発災当時に緊急状態であるという認識があったかどうかというのも重要であるので、ヒアリング調査する対象が震災時どのような状況であったかも含めて検討いただきたい。

以上